

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ 「遊びの中に、たくさんの学びのきっかけがある」という言葉が印象的だった。私は保育教諭として働いているが、この言葉は乳幼児だけでなく、児童にも同じことが言えるのだと知ることができた。学びのきっかけとなる、子どもの好奇心や探索意欲を見逃すことなく見守り、共感していきたい。遊びを遊びとしてだけ捉えるのではなく、様々な視点で見守ったり応援したりすることのできる保育者として、子どもたちと関わっていきたい。
- ◆ 子どもが真に認められるという経験の積み重ねは、子どもながらの心を動かして、自己肯定感を高め、存在意義を見いだすのだとエピソードから学んだ。幼少期は誰しもが通ってきた道であり、今があるわけで、子どもを尊敬の心をもって関わる大切さを理解できた。子どもが主体的になっている時間を大事に認め、励まし、身近な理解者として応援していきたい。また、年齢や人種を問わず、1人の人としてみて、成長過程に携わっていきたい。
- ◆ 子どもにとって遊びは、生活の中心であり、遊びの中で様々な経験をすることが、認知能力だけでなく、非認知能力を身につけていくことにつながっていく。まさに学童保育のような異年齢が交わり、生活する場所での姿だと思えた。子どもたちの力を引き出し、より良い経験へとつながるように、支援員は子どもの生活にかかわり、一緒に何かをしていく存在でありたいと思った。
- ◆ 研修を受けて、遊びとは、今まで考えていた以上に発達において重要だということが分かりました。自発的な活動としての遊びに心身の調和の取れた発達の基礎を培う重要な学びであるということが、深く心に響き、遊びの中で何が起きているのかを見ていくというのがとても大切になってくるのだと感じました。また、子どもたちが自発的にやり出したことを上手に応援していくことも合わせて常に心に留めていきたいと思いました。
- ◆ 遊びは自発的、自主的に行われるもので、不可欠な活動であることを学びました。遊びを通して、他者との共通点や違いを知り、自分を知ることもつながり、成功・失敗体験を通して達成感や自信がつくことも再確認しました。コミュニケーション能力が低下している中で、子どもの環境や成育歴の個人差を認め、適切な関係を築いていけるように、私たち大人も様々な援助をしていく必要性を感じ、今一度見つめ直す良い機会となりました。